



THE DAILY ENGINEERING & CONSTRUCTION NEWS

2018年(平成30年)

日 鷹 工 業 新 聞

8月22日 水曜日
第19491号

発行所 日刊建設工業新聞社
〒105-0071 東京都港区新橋2-2-10
電話03(3433)7151 https://www.den.co.jp/
©日刊建設工業新聞社 2018
〒105-0033 3433-7151 meiji-ed@den.co.jp
〒105-0033 3433-7152 meiji-se@den.co.jp
〒105-0033 3433-7154 ei-grp@den.co.jp

1898 (明治31)年9

月に発生した石狩川大洪水の氾濫面積は1500平方キに達し、死者112人をはじめ、流出家屋2295戸、浸水家屋1万6000戸、農業被害4万1000畝と深い爪痕を残した。この大洪水を契機に抜本的な石狩川治水計画の必要性が痛感され、検討のために「北海道治水調査会」（岡崎文吉ら11人）が発足した。北海道庁の技師・岡崎文吉は1902（明治35）年に欧米を視察。当時の欧米は航路維持のため直線的な河道改修ではなく、自然蛇行を生かす工法が主流だった。岡崎は治水対象流量を江別市の対雁（ついしかり）地点で1秒当たり8350立方メートルと算出した。この流量は、1965（昭和40）年の新河川法に基づく工事実施基本計画が決定されるまで、治水対策の基

明治維新150年と治水の歴史

竹林征三

②4 岡崎文吉と沖野忠雄、石狩川の治水

実施に移した。「コンクリート単床ブロック」を考案し、河道の湾曲部の決壊防止対策とした。さらに石狩市の生振（おやふる）と対雁を結ぶ放水路の整備に着手したが、泥炭地での難工事と財政難に悩まされた。1917（大正6）年、内務技監の沖野忠雄が派遣され、石狩川治水事業は沖野の「捷（しょう）水路主義」に基づく河川改修にシフトされてしまった。石狩川ではその後、曲がりくねって流れる蛇行部をショートカットする捷水路による治水が、一貫して行われてきた。石狩川の本川は数多くの捷水路工事によって長さが364キから100キも短くなった。岡崎は1918（大正7）年に石狩川治水事務所長を

退任し同年、内務省に異動した。1920（大正9）年には中国へ赴任して遼河の治水に献身した。生涯にわたり石狩川の治水に再び関わることはなく、1945（昭和20）年に神奈川県茅ヶ崎市で没した。自然主義の河川改修方式は北海道の原始河川の姿を評価し、できるだけ残そうとした手法。岡崎は「北海道治水の父」として尊敬され続けた。戦後、土木工学の天才・物部長穂が提唱した「河水統制事業」の流れをくむ「河川総合開発」が主流となり、アメリカのテネシー川流域開発公社（TVA）の手法をモデルに、石狩川水系でも多くのダムが建設された。

観測史上最大の洪水で、抜本的な改修が求められた。人は大変な事態にならなければ、本当に恩恵を受けていることが理解できない。一番大切なものがあったのを忘れるのだ。抜本的治水はその典型である。ダムや放水路など抜本的な治水以外で洪水を防ぐには、堤防のかさ上げや遊水池などが代替えとして考えられる。だが抜本的なダムや放水路の方がはるかに合理的な場合がある。千歳川放水路は3万年前の旧石狩川流路をベースに太平洋へ洪水を放流する施設だ。放水路の予定地点にウトナイ湖を含む湿地帯があり、貴重な動植物の宝庫だったことから、自然保護団体と漁業協同組合の猛烈な反対運動が起こり、19

99（平成11）年に計画が中止となる。替わりに数多くの遊水池を造る方法が採用された。この決断は国家百年の計としてどうだったのか。ある面であらう。岡崎文吉の自然主義河川工法の復活とも言えるかもしれない。だが太平洋への放水路は千歳川の原初の姿への回帰であり、千歳川の遺伝子ともいえる。さらに石狩川の広い低平地は、将来にわたって多様な展開を可能ならしめる国の宝であろう。石狩川の水の恵みで大穀倉地帯を成立させる。食料自給率の低い日本にとって重要な食料生産基地になり得ると捉えることもできるのではないかと。〈参考文献〉『物語日本の治水史』鹿島出版会（富士産業大学名誉教授、風土工学デザイン研究所会）

週1回掲載